



学びの BASIC プラン R8 年度版

※掲載の2次元コードは児童用Googleアカウント（〇〇@ita.ed.jp）を使用して読み込んでください。

1 これからの教育の在り方 「教育は人が幸せに生きるためにある」

文部科学省は次期学習指導要領改訂に向けて「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手」の育成を基本的な考え方として捉えています。そのためにはデジタル学習基盤も最大限活用して一人一人の豊かな学びを充実させる視点が重要と説明しています。そのキーワードとして「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」などが挙げられています。

常盤台小学校では、多様な子供たちの「深い学び」を確かなものにするために、以下に示す方策を実践しながら子供一人一人の資質・能力を育成していきます。



次期学習指導要領改訂「文部科学省 教育課程企画特別部会 論点整理」→

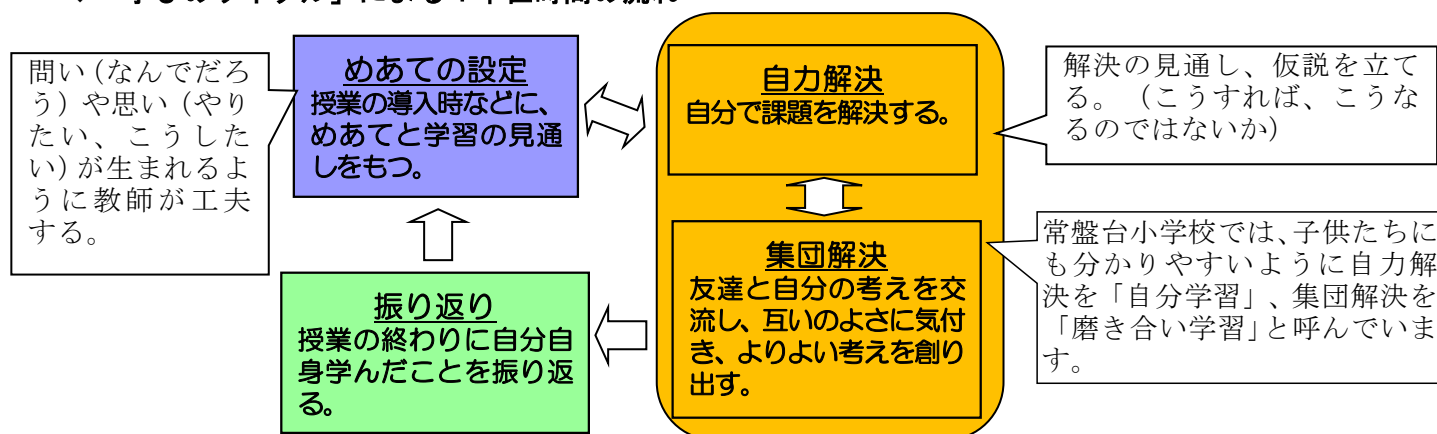
2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

文部科学省は2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿を、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と言っています。それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが重要であることから、本校では授業づくりの際に以下の視点を大切にします。

（1）学びのサイクルを生かした授業づくり

学びのサイクルとは、課題解決型の授業スタイルです。子供たちは、学びのサイクルを基に学習を進めることで課題解決の方法を身に付け、解決の喜びを味わうことができます。本校では、板橋区授業スタンダードと関連付けながら、どの教科、領域でも学びのサイクルを生かした授業づくりに取り組みます。

◆「学びのサイクル」による1単位時間の流れ



（2）生涯にわたって主体的に学び続ける力を付ける授業づくり

「板橋区授業スタンダードS」

教え込み型の子供たちにとって受身の授業では、主体性を育むことは難しいです。子供たちが、自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択、自己決定し、学びを自己調整しながら進める学習過程「板橋区授業スタンダードS」を各教科等の特性や単元・題材のねらい、児童・生徒の実態に応じて取り入れていきます。

板橋区授業スタンダードS→



（3）話し合い活動の充実

多様な他者と協働するためには、互いの意見を認め合い、対話を通じて合意形成を図り、納得感のある解決策を生み出せるように資質・能力を育む必要があります。本校では、「とき小 話し合い活動の手引き」に基づき、学年の発達段階に応じて、連続性のある指導を実践していきます。

とき小 話し合い活動の手引き→



(4) デジタル学習基盤の活用推進

一人一台端末等を活用することで、多様で大量の情報を扱ったり、時間や空間を問わずに情報をやり取りしたり、思考の過程や結果を共有したりするなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が可能となります。本校では、板橋区の指針に基づきながら、情報モラルの指導を充実させて、子供たちの情報活用能力を向上させていきます。

板橋区情報活用能力育成指針→



(5) 思考ツールの活用

思考ツールとは、例えば「ベン図」や「ピラミッドチャート」などがあり、思考する際に、比較や分類を図や表を使って書き出すことで、自分の考えが可視化され、思考の整理が促されます。考えるための技法を身に付けることに役立ったり、整理・分析場面での学習の質を高めたりすることにつながります。本校では、低中高に分けて使用を推奨する思考ツールを示し、授業内で効果的に活用できるようにしています。

とき小 思考ツール一覧→



3 確かな学びの定着

常盤台小学校の学習規律

集団で生活し学習する学校において、すべての子供に学びを保証するためには、最低限の学習マナーとルールが尊重されなければいけません。

授業の準備

始業時の着席

終業時の号令

筆箱の中身

ノートを使い方

話すとき・聞くときの約束

学 習 の 約 束

○休み時間に、次の授業の準備をする。

○チャイムの合図で着席する。

○チャイムが鳴らない場合は、生活時程や教師が指示した時刻までに着席する。

○「気を付け」「姿勢をよくしてください」→「はい」

○「これから〇〇の学習(教科名)を始めます」→「はい」→「よろしくお願いします」

○「気を付け」「姿勢をよくしてください」→「はい」

○「これで〇〇の学習(教科名)を終わります」→「はい」→「ありがとうございました」

○Bまたは2Bの鉛筆4～5本

○赤・青鉛筆（高学年はボールペン可）、白い消しゴム、定規、名前ペン

○原則は1授業あたり、見開き1枚（2ページ分）でノートをまとめます。

定期的

に

ノ

ー

ト

を

回

収

し

、

点

検

し

ま

す

。

よ

い

ノ

ー

ト

を

見

本

と

し

て

紹

介

し

ま

す

。

日付やページ、番号等を書きます。

めあては青い線で囲みます。

必要に応じて先生が話した説明や板書しなかった内容を書きます。

単元名・教材名等

めあて・課題

自分や友達の考え

先生の説明や指示

学習のまとめ

学習の振り返り

練習問題・宿題

下敷きを使います。

学習のまとめは赤い線で囲みます。

4

落ち着いて学習するために

その他の学習の約束

前の日に準備をして、忘れ物はしません。

学習に必要な無いものはもってきません。

宿題や提出物は、登校したら決められた場所に出します。

トイレ、水飲みは休み時間中にします。

授業中は自分の席に座り、必要ないとき以外は立ち歩きません。

発言するときには手を挙げて、指名されてから発表します。

体育の時の着替えた衣服はたたんでおきます。

持ち物、提出物には名前を書きます。



5

学習タイムの取り組み

朝学習の取組

- ◆朝 読 書…ボランティアの方の読み聞かせも含め、本に親しむ環境の充実を図ります。
- ◆元気タイム…学級や縦割り班などで運動遊びに取り組み、運動の日常化を図ります。
- ◆すららタイム…学習ドリルアプリを活用して、自己の課題に応じた学習に取り組み、個別最適な学びの充実を図ります。

6

基礎・基本の定着に向けて

放課後学習教室・漢字検定

- ◆放課後学習…毎週火曜日（1・3・6年生）と木曜日（2・4・5年生）の放課後に学級担任、学力向上専門員、学習支援ボランティア等のサポートによる算数科の補習教室を開催します。
- ◆漢字検定……学校支援地域本部主催の漢字検定です。年3回取り組みます。

7

読書のすすめ

必読図書 100冊読書 10000ページ読書にチャレンジ

1年生～2年生
100冊読書

3年生～6年生
10000ページ読書



必読図書は全学年
(学校指定の本)

各学年の必読図書 例

1年生

「ゆずちゃん」
「さっちゃんのまほうの手」
「へいわってどんなこと？」
「きつねのおきゃくさま」
「こんたのおつかい」
「かにむかし」
「ももいろのきりん」
「ろくべえまってるよ」
「ホットケーキでさがり」

2年生

「はしれ江ノ電ひかりのなかへ」
「はじめてのゆうき」
「ぞうれっしゃがやってきた」
「じごくのそうべえ」
「ごんぎつねコンとこだぬきボン」
「かたあしダチョウのエルフ」
「おいしいのぼうけん」
「ともだちや」
「番ねずみのヤカちゃん」

3年生

「わすれられないおくりもの」
「ココロ屋」
「かあさんのうた」
「黒ねこサンゴロウ旅のはじまり」
「あらしの夜に」
「車の色は空のいろ白いうし」

4年生

「わすれられないおくりもの」
「ぼくとあいつのラストラン」
「ひろしまのピカ」
「デルトラ・クエスト」
（1巻 沈黙の森）
「リトル・ウィング」
「ルドルフとイッパイアッテナ」

5年生

「十二番目の天使」
「テオの『ありがとう』のノート」
「にいちゃんのランドセル」
「ハリー・ポッターと賢者の石」
「ハッピー・バースデー命かがやく瞬間」
「バッテリー」

6年生

「十二番目の天使」
「ほくのお姉さん」
「心のおくりびと」
「精霊の守り人」
「ハードル真実と勇気の間で」
「12歳たちの伝説I」





家庭学習のすすめ

学習の定着と発展のために、子供たちが毎日、自分自身の学習を振り返り、自ら考えて家庭学習に取り組むことはとても有効です。まずは宿題に取り組むことで学習習慣を身に付け、基礎的な学力の定着、そして、自主学習（自主学習ノート）へと発展させていきます。教師は学びの調整ができているかを見取り、価値付け、支援していきます。

1 家庭学習とは

家庭学習には、宿題と自主学習があります。

宿題 学校から出されるもの

自主学習 自分で課題を見付けて取り組むもの

2 家庭学習で身に付くこと

(1) 基礎的な学力

授業の中で「分かった」ことが、後で「どうだったかなあ」と、あやふやになることがあります。授業で学んだことを確実に「できる」にしていくには、繰り返し練習することが大切です。授業の中では、十分に時間をとることができません。家庭学習で繰り返し取り組むことで、「分かった」ことが「できる」自信につながります。

(2) 継続する力

毎日、自分で課題を見付けて学習に取り組むことで、主体性や継続する力を育ちます。教師のコメントや家族からの励ましなどが継続する支えになります。

3 家庭学習の取り組み方

(1) 家庭学習の前に

- ☆学校からの手紙を、お家の人へ渡す。
- ☆テレビやゲーム、スマートフォンが見られない環境にする。
- ☆勉強する場所は片付ける。
- ☆正しい姿勢で取り組む。
- ☆事前に何分するか決める。

(2) さあ、家庭学習です

A 宿題

B 宿題 + 自主学習

☆宿題を最初にやりましょう。

☆できる人は自主学習に挑戦しよう。

◆宿題の例

音読練習

今学習しているところを声に出して1回読む。

漢字練習

書き順に気をつけて、ノートに正確に書く。

計算練習

プリントやドリルなどをする。

◆自主学習の例

復習

学習ドリルアプリで復習をしよう。

予習

次に学習する教科書のページを読んで、視写をしよう。

発展

興味のあることを調べて、自分なりの言葉でまとめよう。

※「家庭学習の手引き」の中で、具体例をたくさん紹介していますので参考にしてください。

○できるかぎり保護者が丸付けをお願いします。丸付けをすることで、学習の定着状況を確認することができます。

○ほめられることで、子供は次への意欲をもちます。どうぞ前向きな声掛けをお願いします。

- ・よく考えているね。
- ・がんばったね。
- ・上手になったね。
- ・ていねいに書けているね。
- ・集中してやっているね。
- ・自分でよく調べたね。
- ・難しい問題に挑戦しているね。

4 規則正しい生活を心掛ける（学力を支える生活習慣）

(1) 早寝、早起き

睡眠時間を十分に確保し、遅くまで過ごすことがないようにします。

(2) 朝ごはん

朝ごはんを食べると一日の生活リズムが整います。

(3) 生活時間の管理

一日の計画を立てて、過ごさせましょう。

(4) 体を動かしましょう

(5) すずんであいさつや、お手伝いをしましょう

家族の一員としての自覚を育てましょう。